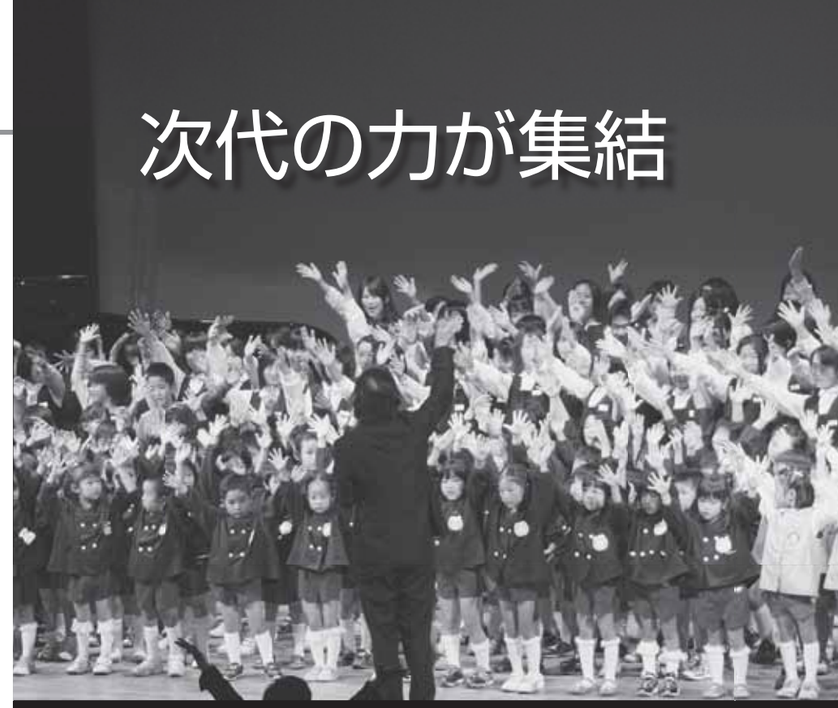
次代の力が集結



町内の園児から大学生までが一堂に会する「御船町教育フォーラム」が10月18日、カルチャーセンターで開催されました。教育のまちと学園都市構想の実現を目指した取り組みとして、今年で３回目。ここでは、小学生から高校生までが参加したパネルディスカッションで「わたしの夢みるみふね町」をテーマとした発表を中心にお伝えします。（順不同、敬称略）

人と人を結ぶつながり

山内 達也
（御船高３年）

将来、御船町が「人とのつながりが強く結ばれた町」だったらいい。町は年々人口は減り、高齢者の割合が増えています。学校の統廃合、将来的な介護施設の不足といった問題が生じています。しかし、現在の町の問題点は、多世代が交流する場が無いこと。町では、核家族や高齢者の一人暮らしも少なくありません。だからこそ、多世代が交流し、昔、不便さの中にあった人とのつながりが町に必要なのではないかと思います。わたしが提案するのは、廃校を利用し、多世代が交流する場を作ること。そこから人とのつながりができたらいいと思います。

子どもの視点を大事に

もっと活気あふれる笑顔の町になって欲しいと思います。そのためのスタート地点は「子ども」。「子ども」は大人では見ることのできない視点から物事をとらえることができるから。例えば、通学路。大人が見るよりも毎日そこを通っている子どもの方がよく知っていたりします。町には、小中高大と、学校があります。学校には音楽という共通点があり、音楽という視点からも、町をアピールすることができます。交通環境の整備、公共施設の充実、教育環境がそろう町は、子育てのしやすい笑顔のあふれる町。この町で育った子どもが大人になった時、「帰ってきたい」「また住みたい」と思えるようになるのではないでしょうか。

長田 鈴子
（御船中３年）

万能薬で命を救いたい

吉住　朱
（高木小６年）

将来、薬剤師の免許を取って、薬の研究者になり、いろいろな薬を開発したいです。どんな病気やけがでも治せる「万能薬」を作り、がんに効く薬を開発したいです。その薬で、世界中の人たちを助けたいと思っています。薬を開発する研究所は、御船町に建てたいです。きれいな水や空気、豊かな森があるこの町は「万能薬」を開発するのに最適だと思います。開発した薬は、多くの人が利用できるように制度を工夫し、治療できる施設も町に建てたいです。大好きなこの町で、わたしの夢を叶えられるようにたくさん勉強し、努力していきたいです。

心が温まる言葉の交流

わたしの住む木倉小校区の自慢は、地域の人同士の交流です。学校の帰りに「こんにちは」とあいさつをすると、「お帰り」と笑顔であいさつを返してくれます。それから「今日も頑張ったね」「お疲れさん」などと、ねぎらいの声をかけてくれる方もおられて、言葉の交流が自慢です。しかし、悪い所もあります。それは、道路や川にゴミが捨ててあるのをよく見かけることです。「またゴミが落ちているな」と悲しくなります。夢みる町は、あいさつやねぎらいの言葉など、人の交流がある人に優しい町、ゴミのない環境に優しい町になって欲しいと思います。

綾　春菜
（木倉小６年）

御船だからできること

植村 巴香
（御船高３年）

御船町を「芸術の町」にしたい。芸術の町にするメリットは大きく二つ。一つは、外部から人が呼べるという点。高速道路を降りた人が寄り道をするだけでも町は活性化し、財政も潤うと思います。二つ目は、地域の交流が盛んに行われると思います。今は、隣の家の人を知らないような人が増えているように、いずれはほぼ他人になってしまうかも知れません。高校生が地域の大人と会話する機会など、ほとんどありません。しかし、似顔絵などを通した会話を介護施設などで行えば、交流もでき、高校生の画力も向上でき一石二鳥。イベントごとに学生を使えば経費もかからずにできます。御船町でしかできないことをやりたいです。

住みよい町を次世代へ

理想は、「安心安全できれいな町」。なぜなら、2・3か月前に旧道が陥没。朝の通行が多い時間帯で起きていたら大惨事になっていたと思います。日ごろから危ない場所や災害が起きたら危なくなる場所のパトロール、看板を設置、道路整備など、確実に安全で安心して通行できるようにして欲しいです。次に、ボランティア活動や清掃活動が盛んに行われる町。そのためには、清掃活動を定期的に行う、自主的や地区ごとに当番を決めてする、町全体での清掃活動を増やすなどの考えがあります。そうすれば、ゴミを捨ててはいけないという考えが広がっていくと思います。これからもっと住みやすい町になって、未来へ引き継がれればいいと思います。

菅　成美
（御船中３年）

思いやりと自然を守る

増永 妃佳璃
（小坂小６年）

「わたしの夢みる御船町二ヶ条」を考えました。一つ目は「思いやりあふれる町」。今、学校であいさつ運動をしていますが、みんなの元気なあいさつが響くと学校も明るくなります。また、困っている人に積極的に声をかける、自分にできることを進んでするなど、相手のことを考えて行動できることで、安心して住める町になると思います。そのために、みんなのことを知り合える町の行事を増やしたいです。二つ目は、「自然を大切にする御船町」。町の清掃活動をしたり、木を植えたり、花を植えたりすることで、自然豊かな町になればいいと思います。住みよい町にするには、一人一人の行動で決まると思います。

みんなの体に優しい町

夢みる御船町は、お年寄りや体の不自由な人に優しい町です。このように思ったのは、明星学園（小坂）の皆さんとの交流がきっかけです。皆さんは、障がいがあっても明るく精一杯生きておられました。そんな人たちを見て、住みやすい町を作りたいと思いました。ぼくがもし町長だったなら、次の二つのことを頑張りたい。一つ目は、全部の学校などに緩やかなスロープを取り付け、足に不自由な人や地域の高齢者の人たちのために役立てたいです。二つ目は、信号を音つきにすること。熊本市内の信号には、よく音が出るものがありますが、町にはありません。しっかり頑張って、優しい町を作りたいです。

古閑 公平
（七滝中央小６年）

ロボット技術国際都市

井芹 将太郎
（滝尾小６年）

将来、こんな御船町を作ろうと思っています。それは、ロボット工業大学やロボット工場が集まるロボットの町。町には、ロボット競技大会で何回も優勝している御船高等学校があります。この実績をいかして、ロボット工業大学を作り、世界の研究者や留学生を集め、ロボット研究の町にして、子どもたちにロボットの面白さや楽しさなど、ロボットへの夢を与えたいと思います。もし、ぼくが大きな社長であったなら、ソーラー発電所とロボット工場を作り、世界のロボットや技術者を集め、町を「にぎやかロボット技術国際都市」にしたいと思います。

皆の笑顔が集うカフェ

夢は、御船町でカフェ屋をすること。カフェ屋をするころは、山や森がたくさんあり、植物が豊かに育っていて、昔からの友達が時々遊びにきて、パーティーをわいわいと楽しくしたいです。そして結婚して温かい家族で、子どもは三人。女の子が二人、男の子が一人です。家の後ろには、大きい畑があって、果物や野菜、お花を植えて育てたい。町もきれいで、みんながポイ捨てをせず地球に優しい町になっていて欲しい。子どもたちはみんな優しく、元気で仲間はずれをしない子どもになって欲しいです。みんなが笑顔で集まることができる、そんなカフェ屋にするのが夢です。

赤星 理彩
（御船小５年）